

J R 東海 労 幹 関 西 地 「 申 」 第 3 号
2 0 1 8 年 7 月 1 0 日

東海旅客鉄道株式会社
新幹線鉄道事業本部関西支社
支社長 松 寄 道 洋 殿

JR東海労働組合新幹線関西地方本部
執行委員長 畑 野 浩 孝

「新幹線車内への盾や耐刃手袋の配備」に関する申し入れ

6月29日、マスコミの報道によると、のぞみ265A殺傷事件を受けて、新幹線車内に盾や耐刃手袋を配備するとの発表がされた。乗務員や警備員が使用することを想定している。また、乗務員に対してその訓練を行うとのことである。

先月、会社は新幹線乗務員に対し、265A殺傷事件を受けて個人面談を実施してきた。その中で管理者からは「お客様の避難と自分の身を守ることを第一に考える」と指導している。しかし、乗務員に対し犯人との対峙を目的とした盾や耐刃手袋を配備することは、組合として断固反対である。

よって、下記の通り申し入れるので早急に労使協議の場を設定すること。

記

1. のぞみ265A殺傷事件を受けて、新幹線車内に盾や耐刃手袋を配備に至った会社の見解を明らかにすること。また、盾や耐刃手袋を配備する目的を明らかにすること。
2. 組合として、犯人との対峙を目的とした盾や耐刃手袋の配備は、断固反対である。会社の見解を明らかにすること。
3. 事件後、個人面談では「自分の身を守らないことには、お客様の身は守れない。」と指導している。盾や耐刃手袋の使用目的を明らかにすること。
4. マスコミ報道によると座席の座布団を盾にして犯人と対峙するとの報道がされた。しかし、現場ではそのような訓練は全乗務員にされていないとの認識である。なぜ、そのような発表をしたのか、明らかにすること。
5. 3月ダイヤ改以降、女性車掌2名クルーが発生している。刃物等を持った暴力を伴った車内トラブルに対して、乗務員の対応をどのように考えているのか明らかにすること。
6. 会社は全乗務員に対し、盾や耐刃手袋を配備に至った経緯を明らかにすること。また、全乗務員に対し、意見を聞くこと。

7. 乗客・乗務員の生命と安全を守るために新幹線車掌2名から3名体制に戻すこと。
8. 今回のマスコミ報道に対するプレス発表は、労働組合への説明が一切なかったことに対し強く抗議する。なぜ労働組合への説明を一切行わなかったのか明らかにすること。

以上